



設立 17 年目を迎えた 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所にとって重要な販路であるバザー等の販売会の機会が激減した中で、一昨年度に変更した定款の事業目的である、「障害福祉サービス事業所と社会をつなぐ」ことを具現化すべく、兵庫県委託事業を中心とした本部事務局と障害福祉サービス事業「マイワーク」の運営を通じて、部門間が連携した販路拡大等の中間支援機能の強化を目指し活動した。

特に兵庫県と協働で、「就労系障害福祉サービス事業所機能強化事業」を展開し、企業と連携した販売場所の確保、ネットショップ構築支援、兵庫県各圏域の福祉サービス事業所や事業所ネットワークと連携協定を締結した販売会の開催事業等を実施し、コロナ禍での事業所商品及びサービスの販路拡大に注力した。

自主事業である就労継続支援 B 型事業所マイワークにおいても、2020 年 6 月 1 日に、各所の協力を得ながら、県内事業所商品の販売を担う店舗をオープンし、ネット販売を含めて販売促進に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響により、ZOOM を使ったオンライン打合せや会議の開催、動画を使ったオンラインセミナーの開催等、ノウハウを蓄積出来た部分もあり、ポストコロナを見据え中間支援機能の強化に活かした。中間支援の新たな形の構築と既存機能の強化を追求していく姿勢は、来年度以降も引き続き基本方針として掲げ続けることになる。

2020 年度事業を総括した上で今後の運営に課題を挙げると、

- ① コロナウイルス等でバザー販売が停滞した場合の販路拡大支援メニューの具体化
 - ② 行政等への事業提案機能の強化
 - ③ 福祉サービス部門の収益化と中間支援機能の強化
- が挙げられる。

① ②については、会員事業所を中心とした県内の事業所ネットワークの強化支援や構築支援を進めること、IT ツールを活用した県内事業所のニーズ把握を進め、兵庫県社会就労センター協議会との連携のもと、ポストコロナの事業展開も含めて行政提言機能を高め、多様な中間支援の形を模索して行く。③については、請求事務や支援記録、支援者間の情報共有に IT ツールを導入することで利用者支援を強化し、利用者の定着を進めるとともに支援の軸を定め中間支援部門と連携した地域協働等、特色ある事業所運営を確立することを目標に取り組む。

売上実績	37,959,600 円
前年度実績	51,480,597 円
前年対比	73.7%

セルフセンターが契約主体となる売上実績は前年を大きく下回った。売上減の最も大きな要因は、年間 2,000 万円程の売上を継続していた「神戸ふれあい工房」の受託契約の終了である。詰合せ等の物品販売を中心に大きく対前年で減少している。もちろん、新型コロナウイルス感染症の影響による卸販売額の激減は下振れの要因となっている。

このような状況の中でも、兵庫県からの優先発注は前年の受注額を超えて受注することが出来た。(対前年比：103%) 企業等からの受託額も対前年比 117%と伸びている。

また、企業と事業所での直接契約や事業所への仲介案件の増加は、ここ数年意図して取り組んでいることであるが、2020 年度においても、年間契約案件をセルフセンターから事業所へ契約主体の移管や、案件紹介は増えており、仕事の受注量増大のためには、新たな分野の受注が重要であり、企業等との協業や他分野の専門家と連携した受注活動を今後も継続してする。

新型コロナウイルス感染拡大の影響の中での販売促進の活動として、「+NUKUMORI」をリニューアルするとともに、事業所独自でネットショップを開設できるよう、EC サイト構築を支援する施策を実施した。

兵庫県 10 圏域でネットワークの核となる事業所等と連携協定を締結し、販売会やカタログ販売を推進した。



販売促進の取り組みとして、兵庫県庁 1 号館中庭で実施する「+NUKUMORI」、更に、コープこうべと連携し、2 月と 3 月の 2 か月間に亘り、県内 23 店舗のコープ各店舗で「つながるマルシェ」を企画及び開催した。つながるマルシェを延べ 49 回開催・96 事業所が参画し、事業所商品の販売促進と地域協働を支援した。

2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベント等の販売会が中止になる場合も多々あったことから、元町 6 丁目商店街の協力を得て、空き店舗にて「+NUKUMORI」の期間限定ショップをオープンした。

「+NUKUMORI」に掲載している商品等からセレクトし、店内で展示販売するとともに、商店街に面した店舗前スペースで事業所が商品を直接販売出来るように調整し、事業所商品の販売促進を実施した。

◆ IT ツールの活用と情報発信

Google フォームを使用したアンケートや仕事情報の提供や募集を実施し、ニーズ把握や効率の良い案件管理を進めた。

販売会の搬入経路の説明等も、これまでの資料作成や FAX での連絡を簡素化し、セルフセンター職員が動画に纏め、YouTube で搬入経路等を限定配信する等を進め、業務効率化に繋るとともに、情報の受け手にとってもわかり易いとフィードバックを得ている。その他にも、「+NUKUMORI」ブランドの周知・PR を県広報誌、ラジオ、フェイスブック・インスタグラム等の SNS を通じて実施した。

◆ 農福連携

今年度で 3 年目となる、みずほ協同農園の協力を得て、企業が運営する農場において事業所職員に農業専門家が継続的に研修を実施する「障害者アグリファーム事業」に取り組み、6 月から 3 月までの全 10 回に 9 事業所が参加し、企業が経営する農園の作付け計画に沿った講義と実技を学んだ。事業所の営農計画に反映されるまでには至らないという課題は引き続きあるが、農福連携への関心が高まる背景もあり、事業所内での野菜づくりのノウハウに活かされている。事業所で作られた農産加工品及び野菜等の販売活動として、「ノウフクマルシェ」に取り組み、農福商品の普及啓発を行った。

農福連携事業のひとつとして、施設外就労のマッチングにつなげて行くことを目的に、「農福連携インターンシップ事業」にも取り組んだ。県内で 4 件の実績であったが、全て作業等

の受託に繋がり、作業内容の摺合せや契約額の調整等において農業者、事業所側双方にとって、作業体験等は有意義であった。

◆ 専門家派遣、技術向上支援

事業所からの申請に基づき、パティシエやデザイナー等の専門家を派遣する「障害者工賃向上支援アドバイザー派遣事業」を実施し、年間を通して 69 事業所へ 52 回の専門家派遣や集合研修等を行った。本事業では、スイーツ甲子園参加事業所へのアドバイス支援も行い、事業目的である工賃向上を図った。

事業所自ら申請書を記入する形式であるので、積極的に本事業を活用する事業所では新商品も誕生するなどある一方で、事業所が希望する分野の専門家とのマッチングは課題として引き続き残っている。新型コロナウイルスの影響により、専門家の訪問による支援の実施が難しい状況が長期化する懸念から、オンラインや動画によるセミナーやアドバイスを企画し実施した。その他にも、食品表示に関するセミナーをオンラインで実施した他、専門家等のアドバイスを纏めた下記の動画を作成し、事業所の技術向上等を支援した。

■ 作成した動画コンテンツ

- ・ EC サイト構築支援動画
- ・ スマホでつくる PR 動画の制作講座
- ・ インスタグラム活用セミナー
- ・ プロから学ぶスイーツレッスン（3 本）



- 人材育成・研修 -

就労支援の現場で活躍できる人材と就労系障害福祉サービス事業所のマッチングを目指し、異業種から転職された方、経営系学部卒業後に福祉系専門学校に進まれた方、福祉系大学から新卒入職された方など、異なる経歴をもった事業所職員 3 名を招き、令和 2 年 10 月 10 日に神戸市で開催された福祉の就職総合フェアに相談ブースを設置し、福祉業界への転職や就職を考えられている相談者の方々の相談及びアドバイス等を行った。

また、就労系障害福祉サービス事業所の仕事の魅力を発信するため前述の 3 名の仕事内容や福祉業界に就職したきっかけ、仕事の魅力等



を取材した動画に纏め、You Tube 等で配信することで、広く障害福祉事業所の仕事の魅力を PR し、事業所とのマッチングを図った。

その他にも、兵庫県社会就労センター協議会と連携協力し、新型コロナウイルス感染症に関する情報・報酬改定・インボイス制度・各種セミナー案内等、メール及びHP等で随時発信を行った。

- 障害福祉サービス事業所の運営 -

訓練等給付費 2020 年度	18,868,953 円
前年度	16,623,719 円
前年対比	113.5%

マイワークは、2020 年 3 月に現在の JR 神戸駅近隣の場所へと移転し、6 月 1 日に店舗スペースを OPEN した。移転と同時に、新型コロナウイルスの影響により、福祉サービスの利用時間の短縮や在宅支援、感染予防対策の徹底など、職員や利用者にとって不安や負担の大きい一年であったが、中間支援団体が運営する福祉サービス事業所としての支援の軸の再構築として、新たな場所で良いスタートを切れた。自店舗での販売活動に加えて、兵庫県福祉センター県民福祉サロンやイベント等での販売活動、その他地域での清掃活動にも取り組み、地域の



方々との交流や社会参加につながっている。

1 拠点に福祉サービスを集約したことで、チーム支援の実践や情報共有をより活発に実施できた。昨年度から引き続き運用している IT ツールは事務の効率化を推し進め、利用者支援への注力という観点から有益であった。